



かっぱ 河童伝説

校長 林 なおみ

日本全国に、様々な「伝説」が残っています。伝説には、それぞれの地域の人々の営みや、自然・出来事に対する人々の思いがこめられています。伝説は、自分たちの住む場所の意味や価値を再発見するという役割も果たします。

4年生は、総合的な学習「川を守る、自然を守る」の学習で、針ヶ曾根地域で行われていた「河童祭り」という行事について調べました。

昔、針ヶ曾根地域でキュウリ畑が 河童に荒らされて困っていた。ある年の7月1日、畑に出てきた河童が地域の人たちに捕まえられた。河童は、「二度と畑を荒らさないから許してほしい」と頼んだ。人々は相談して、「子どもが川で水浴びをする時、いたずらをして溺れさせたりしないこと」「畑の作物を荒らさないこと」を約束させて、河童を許してやった。その時、河童は、「年に一度自分の好物を川に流してほしい」と頼んだ。以来、人々はこの日に「河童祭り」を行うことにし、赤飯と、シソで染めたキュウリの赤漬けを藁（わら）の包みに入れて中ノ口川に流した。この日は家でも赤飯をいただいて、川で水浴びをする子どもたちの事故のないことを、お祈りした。その後、畑の害も、水の事故もなくなった。

「河童祭り」は、子どもたちを水の事故から守ろうという、地域の人々の切実な願いでもありました。

河童の伝説は、新潟市内の他の地域にも残っています。その多くが畑を荒らすなどして人につかまり、許してもらうときに、人々と約束をします。中には、薬を授けるなどお礼をする者もあったといえます。

河童は水神の性格をもつとされ、川と人とのかかわりをつなぐ存在であったといわれます。4年生は、針ヶ曾根の「河童祭り」を知り、私たちの生活に欠かせない中ノ口川を大切に思う気持ちを育んでいました。

3年生は「桃・ぶどう」、5年生は「コメ」、6年生は「中之口再発見」を題材に、学習を進めています。1、2年生は中之口学習の基礎となる、「地域探検」で地域へ出かけます。

子どもたちは、それぞれの道筋で、自分たちの住む中之口の意味や価値を再発見していきます。



【4年生 「河童祭り」の取材】
河童の木像を見せていただきました